



☆芦安小中白峰祭が 実施されました

11月1日(金)に芦安小中学校合同の白峰祭が行われました。

当日は多くの保護者、地域の方に来校していただき、観覧席はほぼ満席でした。ありがとうございます。生徒たちはこの日に向けて、自分たちでどんな目的で何をするのかから話し合い、取組を進めてきました。小中合同で取り組む行事なのだから「小学生があこがれるような、小学生の手本となるような姿を見せたい」という中学生としての自覚と「自分たちのやる気を保護者や地域の方に見てもらいたい」という気持ちはいかがだったでしょうか。



☆小学生の発表(合唱と合奏)

開祭式後、最初の発表は小学生の合唱と合奏でした。合唱曲の「ビリーブ」、合奏曲の「カイト」どちらの演奏も一生懸命に取り組んできた様子が伝わってくるものでした。中学生にとっては、少し前の自分たちの姿を見るような気持ちだったのではないのでしょうか。



☆小中合同太鼓活動の発表

芦安地区で長く続く夜叉神太鼓の流れを汲んだ活動として、小学校4年生から中学3年生がメンバーとなって取り組んできました。演奏に先立って代表生徒が語ってくれた、これまでに太鼓を経験してきた生徒と経験が少ない下級生とではいろいろな面でギャップがあり最初はなかなか思うような練習ができなかったことや、経験者のフォローや未経験者の頑張りで何とか発表にたどり着くことができたといった言葉は、純粹に一生懸命にやろうと思っていたからこそ出てきたのではないかと思います。当日は、指導をしてきている宗先生がつくってくれた「勇気」を力強く発表しました。ピンと張りつめた空気の中でおこなわれた演奏は大変迫力があり、見ていて「カッコいい」と思いました。おそらく聴いている人たちにしっかりと自分たちの気持ちを伝えることができたと思います。演奏が終わり、会場からたくさんの拍手を受け、少し誇らしそうな姿が印象的でした。



☆中学生による合唱

以前の学校だよりで紹介させていただいた「YELL」という曲を発表しました。今回の合唱では、頑張る生徒が少しでもいい演奏・発表をできるように支えたいと、3人の担任の先生も生徒たちの中に入ってくれました。「人数が少ない」という合唱するにあたって大きなハンデを乗り越えようとする生徒の頑張りは届いたでしょうか。



白峰祭の取組期間ということで校舎内に生徒の歌声が響く日がしばらくの間続いていました。その歌声を聴きながら改めて歌声の響く学校というのはいいものだなと感じていました。私の個人的な思いではありますが、白峰祭が終わってもこの歌声が続いてほしいです。



☆中学生による演劇「白雪姫×2」^{かける}

童話「白雪姫」のパロディとしてオリジナルの台本をつくり演劇にしました。台本をつかった生徒会本部に聞いたところ、台本をつくるにあたって大きく2つの思いがあったと話してくれました。一つは小学校低学年でもわかり、楽しんでもらえるような劇をつくりたいという思い。もう一つは、人前に出ることを嫌がるような人でも、少しでも参加できるようにして全員で作ったと言える劇にしたいという思いだそうです。こうした思いを持ち「主体的な活動」をしてきた生徒の演劇は、普段の様子からは想像できないような演技力や工夫された演出などもありその狙い通り、小学生にもわかりやすくしっかりと楽しんでもらえたようでした。



☆全員合唱「もみじ」

プログラムの最後は白峰祭の会場にいる全員で「もみじ」を歌いました。ちょうど周囲の山も色鮮やかになり、まさにこの時期にぴったりの曲だったと思います。今回の白峰祭で歌ったこの「もみじ」が生徒の記憶のどこかに残り、将来、何かの機会に芦安中での生活や周囲の山々の景色を思い出し、自分たちを支えてくれた地域への愛着につながってくれたらいいなと思いました。



☆生徒の展示作品

生徒がこれまでの学校生活の中で作った作品や今回の劇の原作本とオリジナル台本、全校登山で撮影した写真などが展示されました。



とてもいい白峰祭でした。生徒のみなさんお疲れ様。そしてありがとう。



☆税についての作文で入選

夏休みの課題の一つとして3年生の堀内拓弥さんが書いた税についての作文「身のまわりの税金」が、「甲府税務署管内納税貯蓄組合連合会優秀賞」を受賞しました。おめでとうございます。多くの中学校から応募があったなかに入選したということで、大変うれしく思います。私も入選した作文を読ませてもらいましたが、家族で温泉に行った際に聞いた入湯税という言葉に興味を持ち、税について自分なりに調べて知った納税の意義についてわかりやすく書かれていて立派なものでした。

私たち大人であっても日常生活の中で初めて聞くことやよくわかっていないことはたくさんあります。ただ、そのことをそのまましておくか、興味関心を持って調べ追究してみるかで、その後の考え方や行動、ひいては人生までが変わる可能性があります。芦安中学校のすべての生徒に、今回の作文で示されたような探究する力を育成できるよう、一層努力していきたいと思えます。



☆芦安小中学校説明会が行われました

11月6日(水)に南アルプス市教育委員会主催の芦安小中学校の学校説明会が小学校体育館で行われました。この説明会は来年度芦安小中学校へ芦安地区以外から転入学を考えている児童生徒と保護者を対象に行われています。会の初めには、小中学生の太鼓の披露がありました。前週金曜日の白峰祭に続けての発表となりましたが、生徒たちはとても一生懸命演奏してくれました。これ以外にも校長による芦安小中学校の魅力伝える機会や授業参観などもありました。

来年度の転入学生が何名になるかはまだ不透明ですが、一人でも多くの方に芦安小中学校の良い点、児童生徒一人一人がしっかりと成長していく点を知ってもらえるように、これからも情報を発信していかなければと改めて思いました。

☆みんなで焼き芋体験

11月12日(水)に、9月末の学校林整備で打ち落とした枝や学校周辺の落ち葉などを集めてたき火をして、小中学校合同で焼き芋づくりをしました。給食前の時間帯にたき火の中にアルミホイルに包んだサツマイモを入れ、下校時にたき火の中から取り出しました。出来上がった焼き芋は、その場で食べたり、家に持ち帰ったりしました。

普段、どうしても時間に追われることが多い学校生活ですが、この時は、たき火を前にして非常にゆったりとした時間が流れ、生徒も教師も(お迎えに来ていた保護者さんも)柔らかな表情で会話をしていました。こうした時間をつくることのできる場所が芦安中の良さのひとつではないかと思えます。



きれいな紅葉の中、たき火の煙が空に登っていく様子、その下で生徒たちが笑っている様子は、とてもいいものでした。

今回の焼き芋づくりは、教頭先生が多くの下準備と当日午前中から夕方暗くなるまでたき火の番をしてくれたおかげで、とても楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。感謝・感謝です。

☆小中交流活動(国際理解集会)を実施しました

11月14日(木)の午後、南アルプス市内に勤務するALT5名に協力をもらいながら、国際理解集会としてイングリッシュゲームを含む小中学生の交流活動を実施しました。活動は、協力してくれたALTの先生方が自分の出身地の紹介を含めた自己紹介から始まりました。小学1年生に果たしてどのくらい通じるのだろうかと思っていましたが、意外や意外、すべてとはいかないかものしっかり伝わっているようでした。その後は小中学生が4つの縦割りグループに分かれ、5人のALTがそれぞれ用意してくれた教室でイングリッシュゲームに挑戦しました。どれも工夫を凝らしたゲームで小学生も中学生も楽しめたようでした。ゲームが盛り上がり想定していた時間よりも長くなってしまいましたが、児童生徒にとって英語に親しむよい機会になったのではないかと思います。今後さらに活動をブラッシュアップして、中学生のリーダーシップをいかせるようにしていきたいと思います。



手を頭に乗せてセット完了!

え? 答えをのぞいてない?

答えをゆずる優しい中学生?

あの~校長先生はもっとイケメン? のはずでは...

☆デジタルデトックスをしてみませんか?

GIGA スクール構想が実施されて3年が経過、学校内で生徒が一人一台端末を使う光景が当たり前になってきました。一方で、図書室に来る生徒や生徒が読む本数が減ってきているという話も耳にします。確かに情報や知識を得る時にスマホやPCを使ったほうが簡単で素早く手にできることが多いと思います。ただ、こうした手軽さの反面、スマホやPCを手放せなくなり依存症のような状況になってしまう事例もあります。本校においても、スマホやPCの使用について自制がきかないような状況を見聞します。また、動画ばかりを見ていると文章を読み取る力の低下が心配です。家庭で話し合い、スマホやPCなどに触らない時間帯や曜日等を設定してデジタルデトックスにチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。生徒自身の力でこうしたことが自律的にできればよいのですが、場合によっては大人の支援が必要なこともあるかもしれません。ぜひご協力をお願いします。



☆校長のひとこと(雑感)

何かを頼まれたときに「それは自分の仕事ではないので・・・」という言う人が多くなったと聞きます。そうした考えもわからなくはありません。似たようなことは私たちの周りでもあります。黒板が汚れていてもきれいにする係は私ではないから・・・というような場面は「教室あるある」と言えるでしょう。会社や学校での仕事分担、家族の中での役割分担など、世の中を見渡すとそれぞれの人に割り振られた仕事がたくさんあります。ただ、それらに含まれない隙間のような仕事や分担された人がいなくなってしまった仕事などもあります。それらの仕事はどうすればいいのでしょうか。

科学の世界では、生物と非生物の境界を追求すればするほどあいまいになると言われます。同じように私たちの身のまわりにある自分の仕事・他人の仕事の境界も、案外あいまいなのかもしれません。もしそうであれば、誰がするのかあいまいな仕事を「自分の仕事ではない」と判断するより、「誰がしてもよい仕事」と捉えたほうがいいのではないのでしょうか。そして「誰がしてもよい仕事」をしてくれている人に気づくことができるよう普段から周囲のことに興味を持つ。「誰がしてもよい仕事」をしてくれた人には、感謝をして敬意を払う。自分ができる範囲で「誰がしてもよい仕事」に取り組む。逆に「誰がしてもよい仕事」をしなくてもその人を非難しないといったことができる、お互いが気持ちよく暮らせる社会がつけれるのではないかと思います。



☆道徳の研究授業を実施しました

芦安中学校では、芦安小学校と合同で校内研究を行っています。これは小中一貫校として9年間の見通しを持った指導を行うことで成果を出せるようにするためです。今年度の校内研究では「子ども主体の学び」の推進を中心に取り組んでいます。

この一環として11月18日(月)に全校生徒が参加する道徳の研究授業を行いました。今回の授業では、保育園建設に賛成と反対の2つの意見を通して、生徒が主体的に授業に取り組み、「相互理解・寛容」について学んでいけるように考えて準備してきました。先生方がいろいろな立場で保育園建設についての賛否を発言する導入VTRを見て、生徒は興味を持って取り組むことができたようでした。授業をする立場として生徒が興味関心を持つことが主体的に学習する出発点であることを再確認できました。また、生徒たちは、研究授業ということで多くの参観者がいて緊張することもあったと思いますが、それぞれの力を出してくれていました。

今回の授業を通して生徒一人一人が、自分とは意見や価値観が異なる他者を尊重する寛容さについて、自分事として考えることができたらいと思います。



☆輪かんじき作り Part2

11月19日(火)の午後に地域の講師を招いた2回目の輪かんじきづくりがありました。今回は、枠と歯の部分を組み合わせて固定する、できた枠の部分に足を乗せるひもを張るといった作業をしました。3年生にとっては、よく知った講師ということもあり、特に緊張することもなく会話しながら作業を進めることができました。私も飛び入りで参加させていただきましたが、規格で統一された材料を組み合わせるのは違い、一つ一つ太さや長さが異なる材料に合わせて微調整をしながら組み上げるのは、思いのほか手間がかかるものでした。ただ、同時にこうした手間がかかる作業をするからこそ、いろいろな学びがあるのではないかと思います。この後は、組み立てた輪かんじきの表面を整えるなどの仕上げ作業をすることになります。完成した輪かんじきは3年生の卒業制作となります。完成が楽しみです。



☆花の植え付けをしました

11月22日(金)の放課後の時間に全校生徒でピオラの苗の植え付けをしました。この苗は南アルプス市が環境整備の一環として市内各学校に配布してくれたものです。生徒たちひとりひとりが積極的に動いてくれたので、効率よく作業を終わらせることができました。

今回、芦安中学校でいただいた約200本の苗は、ポットや植え込みなどに植えてひと冬を越えさせ、来年の春に成長した株がたくさんの花をつけてくれるようにしていきたいと思います。ただ、心配なのは鹿の食害です。1学期に花壇に植えたマリーゴールドはあっという間に鹿に食べられてしまいましたので、今回は同じ轍を踏まないように工夫して世話をしていきたいです。



☆1・2年生の総合的な学習

現在、1・2年生の総合的な学習の時間では、来年度に行う予定の県内巡り（1年生）、修学旅行（2年生）の事前学習に取り組んでいます。学ぶべき内容は多岐にわたりますが、基本的に生徒が主体的に活動することを前提に進めています。生徒主体で学習を進めるとき気をつけなければいけないことは「何を学ぶのか（教師の立場で言うと何を学ばせたいのか）」を忘れないことです。この意識が薄くなると、事前学習が探究的な活動にならない、行事本番も連れて行ってもらう感覚で何も印象に残らないといったことがおきてしまいます。時間をかけて取り組む行事ですから、少人数であることを生かし、一人一人の生徒にしっかりと目を向けながら事前学習を進めていけるようにしたいと思います。ご家庭でも話題にあげていただき、生徒の興味や関心を聞きながらアドバイスをしていただけるとありがたいです。よろしくお願いいたします。



☆期末テスト

11月26日（木）・27日（金）に2学期の期末テストが行われました。テストは、これまで勉強を頑張ってきた、できるはずだと自信があるときは楽しみに思えますが、一方で、勉強をしっかりとやっとなかった、できそうもないと思っているときには憂鬱な気持ちになることが多いと思います。今回のテストも、それぞれの生徒がそれぞれの気持ちで受験したようです。

スポーツの世界では、試合前にじゅうぶんな練習や対策をしてきた選手は、勝利を目指し自信をもって試合に臨むことができると言われます。同様にテストも「今度はいいい点が取れそうだ」と思えるような取り組みをすることが、大切なのだと思います。まずは、「自分は自信をもってテストに臨むことができたのか」を振り返り、そこを出発点としてこれからの学習への取組を考えることができるとよいと思っています。



☆生徒役員選挙と芦安の未来を語る会

11月29日（金）に生徒役員選挙に関連して芦安の未来を語る会と投票が行われました。規模の大きな学校では立候補者が壇上に立って公約を話す立会演説会方式が多いと思いますが、芦安中では全校生徒が立候補者の公約をベースに、どんな学校にしていきたいのか話し合う形式「芦安の未来を語る会」として行われます。話し合いでは楽しい学校をつくる、一人一人のコミュニケーション能力を高める取り組みをしていくといったことから具体的にどんな活動をしていくのか、その時の問題点は何かといったところについて話し合うことができていました。その後の投票の結果、生徒会長には2年生の金川小次郎さん、副会長に1年生の横谷梨緒さんが信任されました。楽しい学校とはどんな学校なのか？生徒全員で考えていけるように二人の活躍に期待すると同時に、他の生徒も人任せや無関心にならず、より良い芦安中をつくっていけることを期待しています。



☆好きなことを頑張らせる≠嫌なことはさせなくていい

子育てや教育関係の書物や記事などを読んでいると「得意なこと、好きなことを頑張らせて個性を伸ばすのがよい」という話を目にします。確かに、得意なことや好きなことに取り組むことは、子供にとって意欲や自己肯定感の向上につながり、成長を促すことになると思います。ただ一方で、そればかりになってしまうと、嫌でもしなければいけないことや苦手なことにも挑戦するといったことが身につかないのではないかと心配になります。実際、子供に好きなことを頑張らせていれば嫌なことや苦手なことはさせなくてもいいのではないかと意見を聞くこともあります。

私は「好きなことを頑張らせる」とセットとなる言葉は、「嫌なことはさせなくてよい」ではなく、「嫌なこと苦手なことにも挑戦できる」ではないかと考えています。ただ、「嫌なこと苦手なことにも挑戦できる」というのは、なかなか難しいことかもしれません。だからこそ、好きなことや得意なことを頑張ることで自信やエネルギーを高め、それをもとに嫌なことや苦手なことに挑戦できる声掛けや支援を芦安中学校でしていきたいと思っています。

